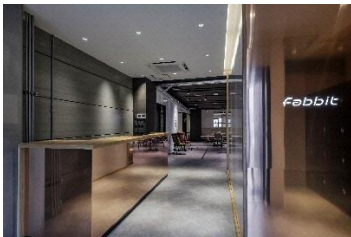


## 【令和2年度 第2回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」】

令和2年度第2回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」を、2020年に OPEN した「fabbit 宗像」にて9月29日（火）に開催しました。

なお、当日はソーシャルディスタンス確保のため、会場でのご参加は講演者・関係者および先着による会場視聴希望者のみとさせて頂き、その他参加希望者には会場の様子をオンライン配信致しました。

今回は2部構成とし、第1部は「fabbit 宗像」での現地セッション、第2部は東京にある「fabbit Global Gateway “Otemachi”」でのカンファレンスをオンラインならびに「fabbit 宗像」のスクリーンにて中継配信しました。少しでも「むな BIZ」の様子をお伝え出来るよう、レポートをお届け致します。



会場：fabbit 宗像 1



会場：fabbit 宗像 2



会場：fabbit Global Gateway “Otemachi”

「fabbit 宗像」・・・スタートアップ企業支援／コワーキングスペース等を備えた施設。宗像市、宗像市商工会、および fabbit にて「創業支援事業に関する連携協定」を締結し、宗像市発の地方創生実現を目指しています。

URL ( <https://fabbit.co.jp/facility/munakata/> )

## 【第2回テーマは「スタートアップ最新事情！～地方と中央のスタートアップ考察～」】

毎回「むな BIZ」では各回で流行のビジネステーマを設定し、講演やパネルディスカッション、交流会を実施しています。令和2年度第2回は、宗像（地方）と東京（中央）、2つの会場にて異なる目線・内容でスタートアップ最新事情に関するトークセッションやスタートアップ企業経営者によるピッチ（プレゼンテーション）が行われました。

第1部では元イジゲン株式会社取締役・市江竜太氏、Houyou 株式会社 COO・福岡広兵氏による「地方創業」に関するトークセッション、第2部では東京ニュービジネス協議会・fabbit 共催による「スタートアップ・メンタリング・プログラム」として、事前審査を通過したスタートアップ企業経営者による自社事業のピッチを上場企業社長や VC に向けて行い、その場でメンタリングや審査講評が行われました。

## 【第1部 現地セッション「地方で創業する」～現役インキュベーターの本音トーク～】

第1部は「fabbit 宗像」を会場とし、進行役に fabbit 宗像ゼネラルマネージャー・田嶋啓氏、現役インキュベーターの市江竜太氏、福岡広兵氏をお招きして「地方で創業する」をテーマにトークセッションを行いました。また、冒頭では「むな BIZ」開催にあたり宗像市産業振興部商工観光課長・飯野英明が、本イベントを通して最新のビジネストピックスに触れる機会や業種・世代を超えて新たな出会いやビジネスの創出を目指したいと話しました。

※「インキュベーター」とは・・・起業に関する支援を行う事業者。



進行役・田嶋氏



宗像市・飯野

<現役インキュベーター① 市江 竜太 氏>

市江氏は現在大分県・別府市を拠点にエンジニアとして、また新規事業の立ち上げ支援者としても幅広く活動されています。元々福岡市でスタートアップ啓蒙事業「スタートアップ・サポーターズ」のコーディネーターとして育成に従事され、2016年からは大分県のスタートアップ企業「イジゲン株式会社」に参画、取締役 COO、子会社代表、ベトナム支社立ち上げを歴任されました。前職の「イジゲン」では飲食関連のサブスクリプションサービスがヒットし、大分・東京の投資家より総額 4 億円以上の資金調達を成し遂げたということで、その過程やバトンタッチしたことについてお話しくささいました。



市江氏 登壇風景 1



市江氏 登壇風景 2

<現役インキュベーター② 福岡 広兵 氏>

福岡氏は実兄が経営するスタートアップ企業「Houyou 株式会社」に参画し黎明期を支え、IPO へ向けた準備とともに、自身の会計・労務・資金調達・MA 等自社の事業拡大にて学んだ経験を活かし北九州市の創業支援施設「COMPASS 小倉」にてインキュベーションマネージャーを務めています。現在、日々起業に関する相談や支援を行う傍ら、北九州市立大学での創業に関する実習授業「北プロ」にて講師を務めていることや趣味である料理をからめながらご自身の経験についてお話し頂きました。

Houyou 株式会社 URL ( <https://www.houyou.co.jp/> )

COMPASS 小倉 (北九州テレワークセンター) URL ( <https://compass-kokura.com/> )



福岡氏 登壇風景 1



福岡氏 登壇風景 2

<トークセッション>

自己紹介後、今回のテーマである「地方で創業する」について進行役・田嶋氏と現役インキュベーターの市江氏、福岡氏の 3 名にてトークセッションが行われ、最初にスタートアップの今と昔の違いについて、市江氏からお話し頂きました。昔は漠然と勉強して独立・起業をしたというケースが多いためか、成功打率が低く、現在のように IT を活用した事業というのは非常に珍しかったと語りました。福岡氏は中央と地方での創業のメリット・デメリットに触れ、中央の方が資金調達しやすいがスタートアップの母数が圧倒的に多いため埋もれてしまう可能性もあり、地方であれば商品力や PR で埋もれることなく、また中央に参入出来ない企業あるいは地場企業からの出資を期待できる点を挙げられました。平成初期の頃には世界の時価総額企業に日本企業がずらりと名を連ねていたのが、令和の今、日本企業が上位 10 社に 1 社も入っておらず、アメリカをはじめとする新興企業が大躍進しているというのが事実であり、日本政府もスタートアップ支援に力を入れ起業家にとって追い風になっていると田嶋氏は語られ、だからこそ地方での創業はデメリットではなく光るものがあれば目立つことが出来るという大きなメリット・チャンスだと話しました。

また、地方では、競争相手が少ないからこそ迷うことなく全力で課題解決に取り組むことが出来、今後は身近なコミュニティで気軽にスタートアップ出来るサポート体制が浸透していくというお話がございました。

次に宗像市にスポットを当て、田嶋氏は福岡市と北九州市という両方の大都市にアクセスすることが出来るという立地のメリットから、宗像市のリソースだけでなく隣の都市のリソースも利用出来るという点に触れました。福岡氏はウィズコロナの影響やリモートワークが普及しはじめた今だからこそ、地方で働く・創業することが選択肢として選べると話し、市江氏も IT 業界含めた特定ビジネスへの追い風になっており、必ずしも都会で働く必要性はないと語りました。

最後は、全国的に人口減少が進む中、人口減少が起きていない宗像市には優秀なスキルやアイデアを持っている方が多数潜在している可能性があり、この「むな BIZ」や「fabbit 宗像」のようなスタートアップ支援施設を通して起業への後押しや興味を持っていただける機会を提供していきたいと結びました。



トークセッション風景 1



福岡氏 登壇風景 2

## 【第 2 部 東京ニュービジネス協議会×fabbit 共催ピッチ大会 オンライン中継】

第 2 部では会場を東京に移し、起業家の育成・発掘の支援事業などを行っている「一般社団法人東京ニュービジネス協議会(NBC)」と fabbit 共催によるスタートアップ企業のピッチ大会をオンライン中継にて配信致しました。このピッチ大会は新たな起業家を生み出すという趣旨のもと、NBC の事前審査を通過したスタートアップ企業らによる自社のサービス・アイデアのプレゼンテーション（ピッチ）を経営者や VC（投資会社）に向けて行い、その場で審査員兼メンターによる投資への期待がもてるかどうかの審査およびメンタリングが行われました。

その審査員兼メンターを務められたのは、株式会社 Ubicom ホールディングスの代表取締役社長・青木 正之 氏、株式会社クリーク・アンド・リバー社の代表取締役社長・井川 幸広 氏、株式会社 MS-Japan の代表取締役社長・有本 隆浩 氏、株式会社エアトリの取締役会長・大石 崇徳 氏、株式会社エスクリの取締役会長・岩本 博 氏、株式会社識学の代表取締役社長・安藤 広大 氏、APAMAN 株式会社の代表取締役社長・大村 浩次 氏、fabbit 株式会社の CEO・田中 保成 氏といったそうそうたるメンバーです。



審査員兼メンター 1



審査員兼メンター 2

今回が記念すべき第 1 回となる「スタートアップ・メンタリング・プログラム」のテーマは「シリコンバレーへの挑戦」とあり、来年 2 月のファイナル大会で見事優勝した企業は実際にシリコンバレーへ挑戦することが出来るというプログラムになっています。今回はスタートアップ企業 5 社によるピッチが持ち時間各 8 分で行われました。

各ピッチ後審査では審査員から札をあげて評価頂く仕組みでしたが、5 社とも各審査員から「もっと話を聞きたい」、「出資したい」札があげられました。



## <登壇された会社>

- 1、ファンズ株式会社 URL ( <https://corp.funds.jp/> )
- 2、株式会社 FUN UP URL ( <http://fun-up.jp/> )
- 3、株式会社ドゥファ URL ( <https://dofa.jp/> )
- 4、ドーナツ ロボティクス株式会社 URL ( <https://www.donutrobotics.com/> )
- 5、株式会社 weCAN

## <審査講評>

ピッチ大会後には株式会社 Ubicom ホールディングスの代表取締役社長・青木 正之 氏がモデレーターとなり、株式会社クリーク・アンド・リバー社の代表取締役社長・井川 幸広 氏、特別ゲストとしてボードウォークキャピタル株式会社の代表取締役社長・那珂 通雅 氏の3名による審査講評が行われました。

井川氏は登壇者の情熱の高さを評価し、今後試行錯誤しながら結果を出していくことを期待していると語りました。世界的に活躍されている那珂市は NBC と fabbit の初共催イベントを楽しみにしていた旨や日本とアメリカの決定的な違いとして企業によるサポートを挙げ、アメリカで起業したいと手を挙げた場合、すぐに中小企業・大企業による出資やサポートの声が掛かると話し、日本の起業家に対するサポート体制がようやく整ってきたと投資家目線で語られました。また、青木氏は起業家の層の厚さや第2回、ファイナル大会への期待を語り、ビジネスチャンスは現在困っている、あるいは今後困っていく分野で広がっていくと講評されました。



那珂氏



講評風景

最後の結果発表では「ドーナツ ロボティクス株式会社」が優秀賞第1位、「ファンズ株式会社」が第2位を受賞され、ドーナツ ロボティクス株式会社の小野氏は必ず世界企業になると決意を語られました。

## 【まとめ】

令和2年度第2回宗像ビジネス交流会「むな BIZ」は、地方と中央のスタートアップをテーマに、宗像と東京の2会場からトークセッションとピッチ大会という異なる目線・内容で開催致しました。これまでのように都会での起業の方が必ずしもメリットがあるという時代ではなくなり、宗像に限ってみると場所やリソースのメリットが有り、ちょっとしたアイデアや普段の生活の気づきから地域の課題解決・スタートアップに繋がる可能性を秘めています。起業に興味がある方やビジネスマッチングをしたい方、宗像市で何かを始めたりチャレンジしてみたい方は宗像市の支援制度の活用や「宗像市商工会」、「fabbit 宗像」へお気軽にご相談ください。

fabbit 宗像 むな BIZ レポーター